

と説き、而して此の地方に於る人種上の名稱の研究は、支那の記録の示す所と、碑文の解釋によりて得たる結果とが、常に一致するものにあらざれば、容易に解決し能はざるものあることを附述せり。

氏は之に續きて更に Radloff 氏が氏に宛て、此の問題を論じたる書簡の一節を掲げたり、之によれば

(E) Radloff 氏は一八九五年に前に抄出せる論述を試みたる後、更に其の考を進めたる所多きを認む可し、即ち

Uigur の九姓 (Toghuz-Uigur) が Oguz の九姓 (Toghuz-Oguz) と同一なるかは甚だ疑はしきことなり、

要するに此の問題は次の場合の中の一に過ぎず、即ち此等の兩部族が各々九姓より成立せしか、或は Oguz なる名は部族の名に非ずして、只だ一般に姓 (Stamm) なる意を示せる語か、或は又一方の部落團體が他方に對應して、之と同様に自からを構成したるものなるか之なり、余は第一若しくは第三の假定を以て可能なりと考ふるものなり、第二の假定に對しては、Oghuz Begleri 即ち「Oghuz の君長等」或は Oghuz Buduni 即ち「Oghuz の民」の如き語が明らかに之を否定す、何れの場合とするも Toghuz-Oghuz 及び Toghuz-Uigur なる名稱は、二箇の大なる姓部團體の名稱なり、而して Uigur もまた Toghuz-Oghuz なる姓部團體に屬したること、並びに後の Toghuz-Uigur が Toghuz-Oghuz の多數の人民を其の中に受け入れたるものなることは疑ふ可らざるが如し、恐らく Oghuz 及び Uigur は只だ兩姓部團體を指揮する位置を得たるものなるべし、支那の記録はトルコ族につきて多くの矛盾を示せども、此の如きは遊牧民の姓氏の區分に關して聽取せる消息を集めたるが爲に起りたることにして決して怪しむに足らず、若し満足なる結果を得んとせば、各姓部に就きて、一々自から探究せざる可らず、好く事情に通じたる人と雖、其の知る所は只だその一姓若しく